

# 多高通信

第192号 令和3年10月29日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 熱戦 体育祭!

### ■体育祭実行委員長

3年4組 沼田 りん(岩切中出身)

今年の体育祭は、昨年に引き続きコロナ禍での開催となりました。分散登校もあり、開催できるかどうか不安もありましたが、先生方をはじめ、生徒一人一人、また身近な方々の努力や我慢のおかげで無事開催し、全競技を成功させることができました。

様々な制限があり、やりたかった競技ができなかったり、他学年の競技が応援できなかったり、不満に感じた人もいたと思います。ですが、全員がルールを守り、今できることや目の前のことに全力で取り組んでくれたからこそ得られた成功だと思えます。

今年の多高三大行事も今回の体育祭をもってすべて終了となります。三年生にとっては高校生活最後の行事となりました。現在、受験を控え、辛い時期にいる人も多いと思いますが、今回の体育祭のようにお互いを励まし合い、最後まで全員で走り抜けましょう!一、二年生の皆さんには、来年こそはコロナが収まって皆さんの自由な発想と積極性で例年にとらわれない体育祭を作り上げ、多高をもっともっと盛り上げて行って欲しいと思います。



## 軽音楽部

### 松島パークフェスティバル2021

10月17日、松島海岸で松島パークフェスティバル2021が行われ、ハイスクールステージに軽音楽部の1・2年生9バンドが出演しました。



毎年春に行われていたこのイベントですが、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となっており、2年ぶりの開催となりました。例年は、このイベントを目当てに訪れる音楽ファンや地元の方々が公園一帯を自由に出入りしたり、飲食店の移動販売が行われたりするなど、大いに賑わいを見せるイベントですが、今回は入場ゲートが制限され、観覧しながらの飲食が禁止されるなど、感染症対策を徹底しての開催となりました。

高校生が出演するハイスクールステージは今年で5度目となり、このステージを含め11の野外ステージが設けられ、松島海岸一帯が音楽に包まれる1日となりました。午前中は小雨がぱらつくあいにくの空模様でしたが、午後からは晴れ間も見え、開放感あふれる素敵なイベントとなりました。

### ■軽音楽部部长

2年4組 佐藤 礼奈(幸町中出身)

私たち軽音楽部は10月17日に松島パークフェスティバルに参加してきました。当日は不安な天候の中での開催でしたが、スタッフの方々、松島高校観光科のボランティアの生徒の方々、地域の方々のご協力のおかげで、9バンドすべて全力でやり切ることができました。1年生は初めての校外でのライブ、2年生はオリジナル曲の初披露、そして全員初めての野外ライブという、初めて尽くしのライブでも緊張していましたが、楽しく演奏することができ、音楽の楽しさを再認識することができました。また、他の高校のバンドの演奏も聞くこと

ができ、良い刺激を受けました。

これからも皆さんに素敵な音楽を届けることができるよう、頑張っていきます。

## 科学部・災害科学科

### アースサイエンスウィーク

10月16日・17日の2日間、浦戸諸島開発総合センター(ブルーセンター)において、アースサイエンスウィーク(仙台市野々島・うみの環境しらべ隊)の環境調査が行われ、災害科学科1年生及び科学部2年生の有志生徒9名が参加しました。

このイベントは、アメリカ地球科学研究機関(AGI: American Geosciences Institute)が、市民が地球科学や自然科学の理解を深め、惑星の進化を学び、地球環境史を認識するための国内外のイベント「Earth Science Week」に端を発し、2013年頃から日本地球惑星科学連合(JGUG)に協力要請があり、2018年から日本国内のイベントとして開催しているものです。本年度行われるアースサイエンスウィーク・ジャパンの一環として、塩竈市浦戸諸島野々島における環境調査に参加することで、海洋ゴミの現状について学び、未来の海洋環境や自分たちの生活について考える機会となりました。

参加した生徒は、海洋ゴミやマイクロプラスチックによる宮城県沿岸の環境汚染の特徴を、実際に塩竈市野々島の海岸における海洋ゴミの採集によってつかみ取ることができました。この経験から、日常生活と海洋との関連性を学ぶと共に、深海細菌や海洋環境における第一線の研究者による講義からも多くのことを学ぶことができました。



### ■2年5組 工藤 万柚(多賀城中出身)

今回の「うみの環境しらべ隊」に参加して思ったことは、

世界中で「海洋問題を解決しよう!」と声高に訴えているが、実はとても難しい課題なのだということ。海洋ゴミは1年間で800万tも排出されています。そもそもみが増え続けるのは、人が「み」を視界から除くだけで安心し、処理は誰かがやってくれるものと人任せになっただけで済んでいることが原因の1つだそう。確かに、私も本当に「み」が処理されるのだろうかと考えたことはなく、人任せになっていました。今回の体験を通して、これからは後先を考えて行動しようと思いました。

## くらしと安全B 特別授業

### 合意形成の技術

「くらしと安全B」は、その道のプロフェッショナルをお迎えし3時間連続の集中講義形式で特別授業が展開され、講義の後のワークショップを通して考察を深める授業です。これまでの災害の学びをより一層深める場として、一段と専門性の高い授業が行われています。



10月21日、京都産業大学生命科学部教授・佐藤賢一先生をお招きし、「合意形成の技術」を学びました。災害後の避難所における運営のあり方、復興に向けたまちづくりの方向性を決定するときなど、常にすぐとなりにあるのは「話し合い」です。さまざまな立場の人々が議論に参加することで、議論は複雑化の一途をたどります。そのような中で、まちづくりに向けた議論の中でよりよい合意形成を目指すためには、どのような視点や方法が必要とされるのかを学びました。

### ■3年7組 佐藤 小夏(塩竈二中出身)

私は今回の特別授業を通して、「目標設定をする時の3分類」を学び、分かりやすさや可能性のレベルに合わせて意義目標・成果目標・行動目標を立てることで、目標を達成するための過程を自分で意識することができると思いました。また、チームについて学ぶことができ、実際にこれから自分自身が社会に出た時に何かしらのチームに所属することや、チームでリーダーとして活動することがあった時にどう行動するべきかを知ることが出来ました。さらに、リーダーが持つべき「5つの影響力の源泉」のうち、今の自分に足りないものは何かを考えることができ、今後の生活の中でその足りない部分をおぎなえるようにしたいです。